

安曇野市自転車活用推進協議会 会議概要

1	審議会名	令和4年度 安曇野市自転車活用推進協議会（第1回）
2	日 時	令和5年3月3日 午前10時00分から午前11時50分まで
3	会 場	会議室 403
4	出席者	益山代利子、平林功、二木正之、細野脩一、太田和男、土屋征寛、村越勝、松島義一、相澤秀明、矢口大輔、横田耕太郎、小林可奈子、北林大
5	市側出席者	大月課長、丸山課長補佐、小西主査
6	公開・非公開の別	公開
7	傍聴人	0人 記者0人

協 議 事 項

1	開会
2	会長挨拶
3	議事
(1)	報告事項
○	自転車活用推進計画「基本計画」進捗状況について
	[趣旨]
○	令和4年度における各部局等の進捗状況を報告
	[質疑応答]
○	サイクリングマップを作成するとのことだが、Aコースは「水コース」、Bコースは「果実コース」というふうに愛称名を加えることによって魅力が深まると思う。 →そのような位置付けが必要だと思いますのでそのような愛称を付ける方向で進めていく。
○	観光客や競技者向けにサイクリングをPRするだけでなく、市民にもサイクリングしてもらえようPRを行ってほしい。 例えば実際にコースを体験してもらい、家族や子どもたちが市の文化祭に旅行記などの展示発表、つまり感想文、スケッチ、写真、短歌、俳句などの文化的なこと、自転車コース走って感じたことなどを市民から募って文化祭に展示し、評価してあげればもっと小中学生や一般家庭にも広がって自転車の推進に繋がるのではないかと思う。 →観光だけではなく、健康増進の観点などから、多くの市民の方にも知っていただけるようにPR方法を検討していきたい。今回いただいたご提案は今後の参考にする。
○	サイクリングマップのシェアサイクリングの場所が分かりにくい。また、マウンテンバイクコースのコースマークの地図の向きが逆ではないか。

→シェアサイクルの表示については、レイアウトする際に検討する。また、マウンテンバイクコースのマップについては、今後作成するときに考慮したい。

○観光客や若い人の自転車に乗るマナーが悪いと感じている。マナーを改善するような周知徹底をお願いしたい。

→今回のご意見を関係部局に投げ掛け、正しい自転車利用を促進していきたいと思う。

○マナーを守って良く走るという走り方の啓発ビデオを、子どもを交えて撮ると良いと思うがどうか。視覚で捉えた自転車推進と安全対策が必要ではないか。商工会では、繋ぐプロジェクトでお店などのビデオを作ったサイトがあり、ある程度効果を出しているのので、文字で見てやるよりも風景などを交えながら作成してみてはどうか。

→委員の意見を参考に今後検討させてもらう。

○令和4年度の交通事故の統計であるが、計260件のうち15件が自転車関連の事故である。季節問わず自転車事故があるので、何か啓発が必要ではないか。

→サイクリングコース整備において、危険箇所については標識等を設置することは当然だが、乗り方については市民の方も含めて何かしらの対策をしなければならないと考える。また、観光客に対しても、レンタサイクル業者を通じて注意喚起してもらうよう促したい。これらの啓発活動については関係部局と連携して、子どもから大人までの安全予防対策を取るよう、関係部署に投げ掛けていきたい。

○県条例で義務付けされた自転車保険についてはどのように捉えているか。

→保険加入は県の義務になっているため、本来自主的に加入してもらわなければならない。学校などが加入するようことを前提に利用するよう通知しているが、一般の方は加入している方が少ないと思うため、加入率増加に向けて周知広報を着実に実施していきたい。

○施策の広域連携、官民連携の推進で、実績として岡山県と兵庫県に情報収集したとあるがその内容について聞きたい。

→淡路市の『チクロス淡路』という民間レンタルサイクル屋を訪れた。安曇野市と同じように道幅がとても狭く、自転車専用ルートが作れないというような場所で、矢羽や自転車補助帯などの整備状況が似ていた。

今後については、国も県も一緒に動いているが、ハードとソフト両面でも課題があるように見受けられたところである。

○ジャパンアルプスサイクリングロードについて、安曇野市の部分もルートを通ることになるが、ルートに関して安曇野市の関わり合いは、どのようなかたちを取っていくか。県でこのルートが設定したことで、市がどのように積極的に自転車で推し進めていくのか。全国の自転車がブームなか、これまでと同じことやっても厳しいと感じるため、「ここは凄い」というところをPRできるような施策を市として発出していくべきではないか。

→ジャパンアルプスサイクリングロードに関しては、県観光部が主導で実施しており、各地域の関係団体の協議会などでそれぞれのルートを確認しながら、今年度内の確定に向けて動いている。まずは、確定することが今年度目指すところである。

→ハード面の整備を含め、現段階では明確な役割分担ができていないと感じている。今後の活用方法については、ルートが確定したうえで、今後どうしていくべきか協議していきたい。

○今後の自転車推進について、スポーツ志向の自転車利用と安心安全で健康志向の自転車利用の方の2つに分かれてくると思うが、空きスペースなどを活用して幼い頃から自転車に関わらせて、自転車のマナーを身に付けることで乗ってもらうことも必要になってくるのではないかと思っている。

→自転車に優しいまちづくりを推進していくにあたり、貴重なご意見として、参考にさせていただく。

○ジャパンアルプスサイクリングロードは、安曇野市サイクリングコースと重複する箇所があるのか。

→やまびこ自転車道と山麓線の一部で重複しており、共用する自転車道として活用している。

○松本大学が主催のフォーラムの講演のなかで、ここ10年でチェコのサイクルツーリズムが進んだ一番の要因は、ツーリストの受け入れではなく市民が積極的に自転車を利用したことに始まっている。利用しないと、本格的な道路環境整備が進まない。計画が策定され、市に多くの人 coming いることは、むしろ全国的にも相当進んでいることを感じているが、環境整備や施策はまだこれからであると思うので、市と市民がお互いに理解した上で進めたほうが良いと思う。また、マナーについては、自転車・自転車・歩行者のそれぞれの言い分があると思うが、お互いに気持ちよく走行できるような啓発をしていくことも大切ではないかと思う。

→マナー啓発は、なかなか難しいと思うが、何らかの集まった機会ごとに啓発していきたい。市民の自転車に対する意識改革のできるような取組みを長い時間をかけて行

っていくことが必要であると思っているので、それに向けて取り組んでいきたい。

○2023 年度環境フェアの実行委員会は立ち上がっていませんが、準備委員会の段階でテーマが「ゼロカーボン」に決定している。自転車推進事業の取組みも良いと思うので、環境フェアでぜひ出展しを広く啓発してもらいたい。

→次回の環境フェアには、環境に優しいまちづくりのひとつのコンテンツとして自転車推進に関するブースを出展したいと思う。

○安曇野は奥座敷ではないため素通りされ、白馬・大町へ行ってしまう。夜や朝のイベントが深くなれば滞在率も高くなり、昼間はサイクリングをするというダブルで楽しめるようになる。やむなく泊まらなければならないような観光を仕掛けていくことによって滞在してもらうことができると思う。

○安曇野市でできることを広域圏域で捉えて事業を展開していく必要がある。近隣の市町村と繋がりを持つ必要がある。公共交通との連携により大糸線へのサイクルトレインの導入ができれば、遠距離でサイクリングができ電車で帰ってくることもできる。海沿いの方が山を見るために自転車を列車に載せて安曇野を自転車で廻ることもできる。

○太田市長と衆議院議員の務台氏の対談がありましたが、務台氏は水素列車を走らせたいと言っていた。実現すれば固定費用削減、架線不要となり環境負荷への軽減が望める。さらには他地域からさらに安曇野を訪れてくれる可能性が高くなる。スケールが大きいですが、将来 20 年先、30 年先を見据えながら、一歩ずつ地道に進めていくことが必要である。

→貴重なご意見として、今後、関係機関と協議しながら、少しずつでも前進できるよう努めていきたい。

(2) その他

(ア) 安曇野市マウンテンバイクコースの運営状況について

[趣旨]

○令和 4 年度の運営状況を報告

[質疑応答]

・マウンテンバイクコースは競技志向の強いコースになっているが、市民に普及させ子どもたちにも多く体験してもらうためには、少しコースレベルを下げた新たな整備が必要であるように捉えている。

→競技性の強いコースであるため、気軽に利用できるような施設ではないので、市民にも広く知られ、楽しめるような場所として来場してもらえよう、初心者の方でも利

用できるようなコース設定を施設内で検討していきたい。

- ・報告書でレンタルバイクの利用台数は出ていますが、実際の稼働率、何台に対して実際にどれくらい利用されていたかというデータがない。どのサイズでどの年代が利用されたのかなどの詳細が必要で、その調査結果によって、必要とするマウンテンバイクの台数が見えてくると思う。

→実績からすべての状況を把握できていないわけではないが、直営で運営してみたなかで、レンタルバイクの子ども用が7台では少ないと感じた。ただ、開場初年度のため十分な準備ができなかったこともあるため、今後の状況に応じて増台することも視野に入れながら指定管理者と協議のうえ決定していきたい。

- ・南信では、小学生対象のマウンテンバイクのクラブチームがとても盛んで、そこから大学生になっても一線で走る人が出ているし、世界選手権で活躍している選手もいる。練習拠点に施設を利用した中からオリンピック選手が輩出されれば宣伝効果にも繋がる。今後、先を見据えながら安曇野市を情報発信していくことがとても重要なことである。

→安曇野市のブランドの発展にも繋がり、大きな影響力があると思うので、小林委員とも協議しながら実行できるよう進めていきたい。

(イ) 一般県道豊科大天井岳線の道路整備について

[趣旨]

○令和4年度の運営状況を報告

- ・ほりで～ゆに向かう所のルートが大変狭く、蛇行して危険があるため、国営公園を過ぎた須砂渡食堂の先から烏川溪谷緑地の環境管理事務所までの約600m間のトンネル整備する計画している。
- ・トンネル内部は、自転車のスペースを広く取り通行しやすくすることで安全面も確保される。
- ・現在は、地質調査が終了しており、今後、設計や用地買収を行った上で工事に着手していく予定。
- ・新たなサイクリングルートとして紹介できるため、マウンテンバイクコースから山麓線までの道路をサイクリングコースのCルートの一部として加え、自転車ネットワーク計画の選定路線として位置付けたいと考えており、具体的になってきたところで再度協議していきたい。

[質疑応答]

- ・事業自体は、マウンテンバイクコースへ向かうルートとして整備を進めたものではないが、道路自体が狭く、車同士のすれ違い困難なためトンネル整備により解消することが主たる目的である。また、マウンテンバイクコースがあることで、多くのサイ

クリストが山麓線からでも行けるよう、トンネル内を安全に自転車も通行できるよう整備を進めていきたいと考えている。

具体的にいつ工事に着手していつまでに完成するということはまだ提示できないが、できるだけ早くトンネルを開通できるよう進めている。

(ウ) 次年度以降の協議会について

[趣旨]

○協議会の開催方法、役員改選について説明

- ・年に1回～2回のペースで会議を開催し、提案として受けたことを少しずつでも実現できるよう、新規事業や予算などに反映していく。
- ・次回開催時は、委員改選後となるため協議会設置要綱に基づき、委員の推薦及び公募により選出したうえで10月頃に開催したい。